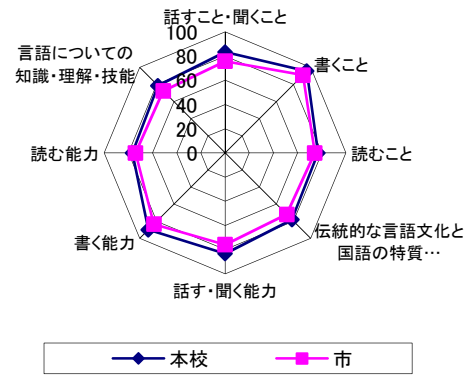


宇都宮市立今泉小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	83.3	75.9	72.1
	書くこと	95.6	91.0	79.2
	読むこと	76.7	74.1	71.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	78.1	72.0	73.0
観点別	話す・聞く能力	83.3	75.9	72.1
	書く能力	89.9	83.3	72.2
	読む能力	76.7	74.1	71.1
	言語についての知識・理解・技能	78.6	72.5	72.8

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

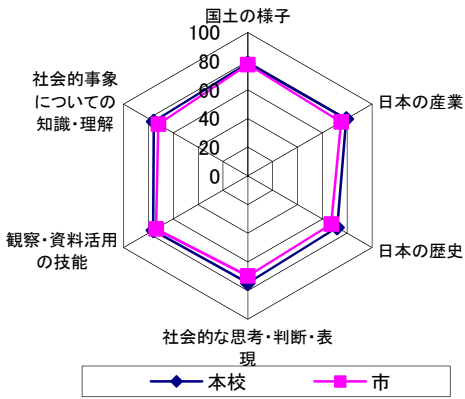
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	市の平均正答率を7.4ポイント上回った。 ○全項目で市の平均正答率を上回った。 ●「司会者の役割を理解して、計画的に話し合うことができる」かをみる問題では、67.7%の正答率で課題が残る。	計画的に話し合いを進められるように、司会者の役割を十分に理解させる。小グループでの話し合いの機会を増やして役割等を理解させたり、しっかり相手の話を聞くことで話の流れをつかんだりできるようにしていく。
書くこと	市の平均正答率を4.6ポイント上回った。 ○記述においては、「その意見に賛成する理由を書く」内容で100%の正答率であった。 ●全項目で市の平均正答率を上回ったが、「2段落構成で文章を書くことができる」かをみる問題では、90%を下回っており、整理して文章を書く力に課題が残る。	文章を書く際には構成を意識して下書きメモなどを準備し、内容や順序を考え、意識して構成を考えた文章を書くようにしていく。また、様々な文章に親しめるような機会を設けていく。
読むこと	市の平均正答率を2.6ポイント上回った。 ○説明文の内容や資料、パンフレットの情報を読み取る問題では、全ての項目で市の平均正答率を上回っている。 ●登場人物の様子や心情の読み取りに課題があり、物語の内容を読み取る問題では、ほとんどの項目で市の平均正答率を下回っている。	教科書の物語文を読む場合には、登場人物の行動や言葉などの場面で問いかけをするなどして考えさせ、登場人物の心情や周囲の状況などを読み取ることができるようにしていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	市の平均正答率を6.1ポイント上回った。 ○ほぼすべての項目で市の平均正答率を上回った。 ●漢字を書く問題ではほとんどの項目で市の平均正答率を上回っているが、十分に書けない漢字もあり、課題として残っている。	ドリル等を使って繰り返し練習を充実させていく。また、なるべく漢字を書く機会を増やすよう、日記指導等を行っていく。漢字練習の際には文章や熟語などで練習をするようにしていく。

宇都宮市立今泉小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の様子	78.5	77.6	77.6
	日本の産業	79.2	75.1	67.5
	日本の歴史	71.9	67.2	62.0
観点別	社会的な思考・判断・表現	74.8	69.7	64.7
	観察・資料活用 の技能	76.1	73.8	68.5
	社会的事象について の知識・理解	75.7	72.0	67.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

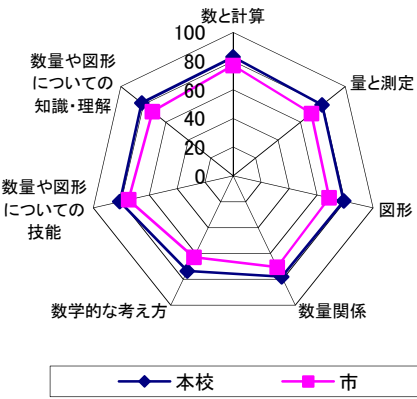
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の様子	平均正答率は市の平均とほぼ同等で、学習内容はおおむね身についているといえる。 ○資料が日本を通過する台風の数を示したものであることを読み取る問題や北海道・沖縄地方の暮らしについて考察する問題では市の平均を4～7ポイント上回っており、資料を活用しながら日本の風土について丁寧に確認してきたことが効果を上げている。 ●日本の周辺の海洋を選んだり国土の位置についてあてはまる文章を選択する問題では、市の平均をやや下回っている。	・日本の風土や暮らしの様子については、各自がテーマを設定し、図書や情報機器を積極的に活用しながら調べ活動を取り入れることで、自国に対する関心をより高めていけるようにする。 ・学習の中で地図を積極的に活用し、日本の位置や周辺の様子について確認する機会を数多く設けていく。
日本の産業	平均正答率はほぼ全ての項目で、市の平均正答率を上回った。 ○日本の食料自給率に関する設問では、外国からの輸入に依存している食料の種類など正しく理解している。 ●自動車生産の過程については約90%が正しく理解しているが、やや誤答も見られる。	・日本の食料自給率に関しては、食育や家庭科などとの関連を図り、自分たちの身の回りにある食料の産地や流通経路について考える機会を設けることで、意識を高められるようにする。 ・自動車生産の過程については、自動車生産工場などの協力を得ながら生産の現場を体感させることで、ものづくりに対する興味や関心を高められるようにする。
日本の歴史	平均正答率はほぼ全ての項目で、市の平均正答率を上回った。 ○豊臣秀吉の業績について答える設問では、市の平均を20ポイント以上上回るなど、戦国時代に関する興味・関心が高い。 ●縄文時代の生活で用いられた道具を選ぶ設問では、市の平均を約20ポイント下回っている。	・絵や写真などの資料を教室に常置したり、歴史上の偉人に関する図書を常置するコーナーを設けて身近に触れられるようにしたりすることで、児童が歴史について抱いた疑問を解決できる環境をつくる。 ・博物館の見学など実物に触れる機会を設けることで、昔の生活様式についても関心を高められるようにする。

宇都宮市立今泉小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	82.9	77.0	70.4
	量と測定	79.3	69.8	68.5
	図形	79.1	68.6	72.4
	数量関係	78.1	70.6	60.4
観点別	数学的な考え方	73.6	63.0	54.8
	数量や図形についての技能	81.0	74.7	67.3
	数量や図形についての知識・理解	81.6	72.0	74.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(算数では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

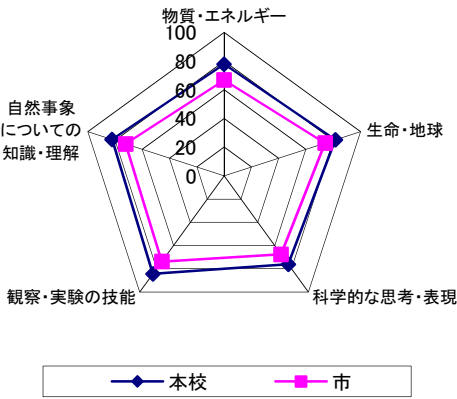
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は1項目以外は市の平均正答率を上回った。 ○分数の除法の文章問題に合った図を選ぶ問題では、正答率92.4%とよく理解されていた。答えを導き出す過程を大切に授業展開を行ってきたことなどの成果であると考えられる。 ●小数同士、分数同士のかけ算わり算の技能は、ほぼ身に付いているが、約分のある分数のわり算の問題は市より正答率が低かった。	・小数や分数の計算については、引き続き計算ドリルやプリントで繰り返し練習するとともに、児童の状況に応じて、分数や小数が混じった式の計算や3口以上の分数同士の計算など、発展的な問題を解決する力も身に付けていけるよう指導していく。
量と測定	平均正答率は全ての項目で、市の平均正答率を上回った。 ○三角形やひし形の求積や展開図から円柱の体積を求める問題については、80～90%の正答率で、よく理解できている。 ●単位量あたりの大きさと速さの問題では、やや誤答が見られた。	・単位量あたりの大きさや速さを求める学習では、問題に応じて数直線や図などを用いながら立式したり、簡単な数字に置きかえて考えたりできるように支援をしたい。 ・速さについては、「速さ・道のり・時間」の意味や関係を確認し、多くの問題に取り組ませることで定着を図っていく。
図形	平均正答率は、市の平均正答率を約10ポイント上回った。 ○合同な三角形を作図する問題では97.5%と高い正答率でよく理解している。 ●円の半径から、円周を求める問題では、市の平均正答率を上回ったが、58.2%と誤答が多かった。	・図形については実物を用いたり、少人数指導やT・Tにより一人一人を支援したりしながら授業展開したことが高い正答率につながったと思われる。今後も継続し、個に応じた指導の充実を図る。 ・円周や円の面積の学習では、「半径・直径・円周」の関係を確認し、具体物の操作を通して理解を深めたい。
数量関係	平均正答率は全ての項目で、市の平均正答率を上回った。 ○割合の読み取りや比較量を求めることがよくできていた。また比例・反比例の正答率は市より10ポイント以上上回っており、十分理解できている。 ●比を使い、部分の量から全体の量を求める問題では、市の平均正答率を上回ってはいるものの、正しく解答できたのは半数以下であった。	・比は割合を表す方法の一つであると捉えさせると共に、身近な生活の中で比が用いられている具体的な場面を取り上げ、理解を深めていけるようにする。

宇都宮市立今泉小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	77.8	66.8	63.6
	生命・地球	81.5	74.0	75.3
観点別	科学的な思考・表現	76.2	67.6	65.0
	観察・実験の技能	84.4	73.8	70.4
	自然事象についての知識・理解	82.1	72.1	73.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	平均正答率は1項目以外は市の平均正答率を上回った。 ○「ふりこのきまり」では、ふりこの性質を理解し、1往復の時間の求め方など、十分な理解がなされている。 ●「もののとけ方」では、市の平均を2ポイント下回り、ろ過する実験についての理解が不十分であった。	・実験をする際には、その方法を与えるのではなく、児童に考えさせ、効果的な比較実験の方法を考える力を育てていく。 ・ろ過については、再度水溶液の性質を確認しながら、重さの変化を考えるようにする。
生命・地球	平均正答率は全ての項目で、市の平均正答率を上回った。 ○「太陽と月」では、月の見え方の実験や、太陽との位置関係をきちんと理解することができた。 ●「生物のくらしと環境」では、植物と酸素・二酸化炭素の実験の正答率が73%～83%と低く、理解が十分ではなかった。	・観察学習では、観察するポイントを明確にするとともに、観察体験を積み重ね、活用力を育てたい。 ・植物と空気のつながりについて、実験結果を確認すると共に、図や矢印等を使って理解を深める。